

## 「仙台市スポーツ推進計画」における今後の取り組みについて ～「仙台市スポーツに関する意識調査」の結果を受けて～

### 1. 基本方針

#### (1) 市民ニーズや社会情勢の把握

本計画策定時に実施している市民意識調査を再度行い（28年5月に実施）、本市の運動・スポーツ活動の現状や市民のニーズを把握する。

なお、今回の調査結果から数値目標の達成状況を見ると、全般的に平成22年の調査結果を下回る数値となっていることから、震災前の状況への回復に向けた取り組みを検討する。

#### (2) 関連計画との整合性の確保

国の定める「スポーツ基本計画」や「宮城県スポーツ推進計画」といった上位計画の他、本計画策定後に新たに策定された「仙台市政策重点化方針 2020」やその他関係各課の各種計画や社会情勢の変化との整合を図る。

#### (3) スポーツ施設整備のあり方の検討

本計画上で定める「スポーツ環境の整備・検討」の推進にあたっては、旧整備計画（平成6～22年度）の総括も含め、既存施設の現状・課題を把握し、今後のスポーツ施設整備のあり方についての考え方を整理する。

### 2. 留意事項

(1) これまでの取り組みを継続しつつ、既に取り組みが終了した施策や社会情勢の変化や東京オリンピック・パラリンピックに向けたスポーツ気運の高まり等に対応した新たな取り組みについて整理する。

(2) 目標数値が震災前より下がっている要因を分析し、スポーツ施設での自主事業や地域スポーツ団体での取り組みといったソフト事業を強化する方策を検討する。

(3) 民間施設を含めた本市及び近隣自治体のスポーツ施設の整備・利用状況等を整理、把握する。

また、設置から30年以上経過している施設が多いことから、公共施設マネジメントプランと連動しながら、2020年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地や大規模スポーツ大会の誘致に向けて、計画保全による延命化を主とした効率的かつ効果的な修繕計画を検討する。

なお、旧整備計画での未整備施設や新規要望施設については、民間活力の導入といった視点も含め長期的な観点から検討を行うこととする。

### 3. 意識調査の結果にかかる検討委員会での意見等

#### (1) ライフステージに応じた取り組みの必要性

スポーツをしない理由に「時間がない」「子育てに忙しい」、また公の施設に望むこととして「託児施設の充実」が挙げられていることから、スポーツ活動が低下傾向にある子育て世代向けの取り組みなど、ライフステージに合わせた支援が必要。

#### (2) 「個」のスポーツ活動に視点を置いた支援の強化

比較的時間やお金をかけずに一人でもできるスポーツや運動のニーズが高まっていることから、自分の時間を自分のペースで活用できるようなスポーツ環境整備が必要。(例：利用時間の拡大等)

#### (3) 「個」の活動から、交流拡大へつながる取り組みの実施

手軽に身近にスポーツに親しむ環境をつくり、スポーツを始めるきっかけづくりを進めることで「個」の活動を底上げしつつ、スポーツを通じた交流の輪をひろげるといった両面からの取り組みが必要。

#### (4) 潜在するスポーツ意欲を掘り起こす取り組みの検討

スポーツをしない理由の多くに「機会がない」、またスポーツをするきっかけとして「やる気」が必要との回答が多いことから、まだスポーツの潜在的な需要は多いと伺える。

スポーツの楽しさを感じられるようなきっかけづくりや、負担なく継続できるような環境の整備が必要。(例：初心者向けのスポーツ教室等の充実、利用手続きの簡略化等)

#### (5) 高齢化する地域スポーツ団体への対策検討

学区民体育振興会等、地域のスポーツを活動を支える団体の構成が高齢化しており、30～40代の活動が減少することで、団体の活動が途切れてしまっている。

働く世代のスポーツ活動支援や地域活動への参加促進に向けた取り組みの強化が必要。

#### (6) 大学・民間とのネットワークの拡充

大学や民間企業が有する施設の活用の他、財政面での支援、指導者等としての人材の派遣等ハード面、ソフト面の両面から大学や民間の力を活用するため、ネットワークを拡充する取り組みが必要。